

いくら時代が豊かになっても

職員室前のカウンターの前に、今年度の落とし物や忘れ物がディスプレイされています。持ち主が引き取りにくることはほとんどなく、箱からあふれんばかりの状態です。全校放送で生徒たちに、自分のものではないか確かめるよう促しましたが、足を運んだ生徒はほんの数名。間もなく撤去する予定です。

豊かな時代だということでしょうか。自分の手元から離れていってもさほど気に留めず、新しい物を購入して生活できてしまうようです。「そういう時代だから」という言葉だけで済ましたくないと思うのは、私だけでしょうか。

今朝七時過ぎに私の前を通過していった一年のS・R君が、数分後にカバンを背負ったまま私のところに戻ってきました。

不思議に思った私は、「どうしたの？」と尋ねました。「ジャージのポケットに入れておいた三角定規を落としてしまいました。探してきました！」

彼はこう答えると、再び私の前を通り過ぎて、来た道に戻っていききました。一緒に登校した友人のK・S君も彼を追いかけ、私の前を通り過ぎていききました。彼らは途中で合流し、二人で三角定規の捜索が始まりました。

しばらくして、二人は肩を並べてもどってきました。先ほどと比べると表情が落ち着いています。見ると、S・R君の手には三角定規が握られています！三角定規が発見できた上に、友達の優しさも実感できたS・R君はとてうれしそうでした。私もうれしくなりました。自分の持ち物に愛着をもち、冷たい空気の中を引き返してまで探しに出かけた生徒がいたこと。そして、仲間を心配するだけではなく、実際に一肌（ひとはだ）脱ぐことができた生徒がいたこと。今朝はこれまでで一番の冷え込みでしたが、私の心はとても温かくなりました。

いくら時代が豊かになっても、ものに対する愛着がもてるようにさせたいものです。「なくなっちゃった」の一言であきらめたり、「新しいものを買えばいいや」と物の価値をないがしろにしたりしない大人になってほしいと願っています。物を粗末にする人は、無意識のうちに、仲間をも粗末にしているかもしれないかもしれません。S・R君は、三角定規と仲間をこれからずっと大切にすることでしょう。

（十一月十一日記）



主（あるじ）を待つ落とし物忘れ物たち